第 2015-50 号

恵みと真理のニュース

2015 年 12 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 不妊判定を受けた私が神様の恵みで子を産み、神様の愛で子をそだてる幸せを享受するようになりました

不妊判定を受けて結婚生活を7年間しても子供が出来なかったです。妊娠に良い薬と良い食べ物を食べても何の効果もなかったです。私と似ている子が息をして私を見て笑って体温を感じることができればどんな代価を払っても耐えることができます。そのように子供が欲しくて祈りました。

そうするうちにIMF経済危機を乗り越えなくて事業を失敗して他の所に引越ししました。引越しした後、まもなく恵みと真理教会の首区域長に導かれ教会に行きました。私は子供の時から教会に通いましたが信仰がなかったです。不妊判定を受けて全ての努力しても子供が出来なくて経済的にも苦しくなって心が寂しくなり神様の存在まで疑いをかけて恨みました。それで、一時期、礼拝に行って御言葉も聞かなくてただ座っていてすぐ帰って来る日が多かったです。

ある日、区域の礼拝に参席しましたが、区域の聖徒の祈り課題で嫁が10年になっても子供が出来ないから心配だと祈りました。みんな自分の事のように熱心に神様に祈り始めました。初めはこの祈りを聞いていたがある瞬間、涙が出て神様に切に祈りました。“神様、私も子供を下さい。共に食事をして抱っこする子を下さい。今まで神様に対する信仰と愛が足りなかった事、疑って恨んだ事を赦してください。これからは神様を正しく信じて支えます。そのように祈りました。

その日から何日が過ぎて驚くな事が起きました。神様は私の祈りを聞いてくださった確信を得ました。礼拝を捧げて信仰と希望と愛で神様を支えました。そして、ある日は昼寝をしたら夢で“あなたに子を与える”と神様の声が聞こえました。驚いていつも用意して妊娠テスト機器を使いました。妊娠でした。いつも願っていた希望が成し遂げられました。神様が私の祈りを聞いてくださいました。区域の聖徒の祈りを聞いてくださいました。身ごもる福を与えてくださいました。しかし、その年が33歳で糖尿病にかかっていたので心配になりました。そして不信者だった夫に実家では喜ぶどころか“体に異常があるのに子を産んだらどうするか、早く妊娠したら良いのに”とむしろ、のろいの言葉を言いました。様々なことで出産まで大変で怖れました。

そんな心配をしなくて切に神様を仰ぎ祈りました。すると、驚くほど神様は夢と幻を通して心が揺れないようにしてくださいました。イザヤ42章の御言葉で慰めてくださり、当会長牧師が夢で出てこの御言葉で子供を育てなさいと言われて白い聖書を渡す夢もみました。特に月曜祝福祈り会と金曜祈り会に行くとただ感謝の涙が溢れて“神様が下さった子供だから確かに健康できれいな子なのよ！”と希望と確信と喜び溢れました。“全てが神様の摂理の中で成しとげるので神様の前で感謝し待ち望みます。”このような心で祈って9ヶ月が過ぎて糖尿病で誘導分娩で病院に入院しました。誘導分娩を始めて2週が過ぎても子が出る気味がないと病院では12時になっても症状がないと週術をしなければならないとしました。ちょうど区域長が連絡をしてくださいました。その話を聞いて私のため祈り会をするから しばらく待ってみなさいと言いました。

驚くな事が置きました。11までどんな症状もなかったですが急に陣痛が始まって羊水が出て子が動きました。医師も驚きました。5時間10分の長い陣痛の末に赤ちゃんを産みました。その時の嬉しさは言葉で表現できないです。神様の恵みで嬉しいかぎりで感謝でした。

今この娘は教会学校の聖歌隊で神様を賛美して恵みと真理の子供できれいな信仰を持て育ています。私の糖尿病で心配しましたが、何の病気もなく傷もない健康な子です。家で毎日愛らしい娘の賛美の声が響きます。まだ、イエス様を信じない祖母が月を見ながら願をかけてみたら“お祖母さん、そうすると地獄に行きます。天の神様に祈らなくて偶像崇拝をするのは神様が嫌いな事です。”とおっかぶせて言います。“うちの教会に行くと本当に恵みがあって楽しい。イエス様が私達を見守ってくださいます。”と友達に伝度もします。教区長が訪問で来たときに献金を用意してない日には自分が遊んでいたお金を出して“献金、私が神様に捧げます。”と言い私をはずかしくさせたります。

神様は私に福を与えてくださって限りない恵みに感謝します。私の家庭で大事な子供を与えてくださった神様を賛美してこの子がサムエルのようにどんな状況でも神様だけ委ね祈る人、いつも御言葉に従順して清い心で教会と国のため献身する者として育つのを願い祈ります。ハレルヤ！

［信仰コラム］ 真に永遠な幸せ

″…「不法をゆるされ、罪をおおわれた人たちは、さいわいである。罪を主に認められない人は、さいわいである」。″(ローマ人への手紙 4:6~8)

幸福とは嬉しくて楽で豊かな状態を意味します。 どんな状況でも喜んで、穏やかな心で生きる人々がいます。 これらを見ると、何種類があります。 第一に、万事を超越するほど、修養がなった人がいます。 第二に、自分が置かれている状況をきちんと把握できず、心が楽しくて楽な人がいます。 その他に幸せするしかない理由を持った人がいます。 これは救世主によるものと消滅したり、奪われることはできない理由です。

人がこの世の中、それなりに幸せに暮らすと言っても、死んだ後に永遠の刑罰に直面して負けたら彼の一生の幸せは意味のないことになってしまいます。 地獄を否定したり美化することを言うのではなく、その所に行かないように対策を講じる方を選ばなければならないです。 イエス・キリストを信じない限り、真の幸福はありません。 イエス・キリストを信じる者にはとが下賜されて義人になって刑罰審判を免れるのは当たり前で、その他にも幸せにする多くの理由が許可されて約束されました。 聖徒らはイエス・キリストのために幸せな理由を持ったため、幸せな人らしく生きなければなりません。 しかし、実際はその幸せを十分に享受できずに住む聖徒がたくさんいます。 その原因と弊害を探して、果敢で断固として退けなければならないです。

第一に、比較劣等感を退けなければならないです。

他の人と比較すれば、比較劣等感を持つようになるか比べ優越感を持つようになります。 驕慢に生む比べ優越感以上に悪いのは、比較劣等感です。 カインは比較劣等感によって猜忌嫉妬心が極限に達して、弟のアベルを野に呼び出して殺しました。 一つのタラントを受け取ったしもつは五つのタラント、二つのタラントを受け取ったた仲間と比較して激しい劣等感を持つようになった結果の主人から悪で怠け者という叱責を受けて持ったことさえ奪われて、外の暗いところで追い出されました。 比較劣等感は嫉妬心を生んで不平ばかり言う者がなるようにして意欲を喪失させて自暴自棄に至るようにもします。 そして、自分は不幸という思いに駆られます。

神様が建てた万物は非常に多様です。 このような多様性は神様の腕前であり、神様の意味です。 ですので、私たちは知能と才能と容姿や能力と趣向が異なっているのが神様の腕前であり、神様の意味と摂理ということを悟って相互尊重しなければなりません。 もとより、競争社会に生きている以上、比較をしがちだが、その比較が自己発展のための努力の動機になるようにしなければなりません。 そして、自分と異なる点を確認して認定して調和を成していかなければなりません。

第二に、孤独感を退けなければならないです。

イエスが弟子たちを連れてサマリアの’スガ’という村に達して、一人で井戸端に座る聞きになった時に一サマリア女が水を汲みに井戸に来ました。 村の女性たちが朝と夕方に多くの人が水培ってきているのとは異なり、正午ぐらいに一人で来ました。 この女性は五度も結婚と離婚を繰り返した数奇な人生を生きました。 女性はイエスや暫しの対話を通じてイエス様がメシヤということを分かるようになりました。 すると、女性は完全に変化されました。 その場に水がめを放擲して村に駆けつけて自分がメシヤに会ったと伝えながら人々を連れて、イエス様へで来ました。 村人たちは孤独にとらわれていた女性が明るくて活気に満ちた姿に変化されたのを見てすべてイエス様ともに出ました。

真の幸せは永遠の幸せに起因したものです。 イエス・キリストを信じて救援を得た者がならなければ、永遠な幸せに参加することができません。 イエス・キリストを信じる人は永遠な幸福者であり真の幸福者です。 そのため、その世界に滞在する間、比較劣等感や孤独感に陥る理由がありません。 聖徒の皆さんは幸せの理由を一つ一つ見つけて享受し、″庵や宮殿や私の主イエスを祀ったところがそのどこも天国!″と心から湧き出た賛美歌を招くことになって下さい。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

貪欲を治める秘訣

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

心の状態は外部の状態の以上に私たちの生に重大な影響を及ぼします。 だから心を治める事の重大さはいくら強調しても度が外れないです。今日は “貪欲を治める秘訣”に関してよく見ます。
聖書は人が欲望を持つことは奨励するが貪欲を持つことは禁じています。 人は非常に多様な欲望を持って生きて行きます。 行動科学者メドロウは人間の欲望を五つ段階で分けて説明しました。 第 1 段階は生物的欲望として食欲のような基本的な欲望です。 第 2 段階は安全と安定に対する欲望です。 第 3 段階は社会的な欲望です。 人間的な親和関係、付き合い関係を持とうとする欲望です。 第 4 段階は自ら欲望です。 他の人々から尊敬されたいという名誉、個性、自尊心、自主性を切つに望みます。 第 5 段階は自分完成、自分実現の欲望です。 これは人間において最高段階の欲望であり、この欲望は限りなくて死ぬ時までも完全に満足させることができないと言いました。欲望をどのように分類して分析しても明らかなことは人は非常に多様な欲望を持って生きて行くという事実です。 どの人々はどんな欲望もない境地に至ろうと労力して道を修練します。 つまらない事です。 そんな境地に至ろうと思う自体が一つの欲望です。 何も望んで願うのがなければ無気力症、意欲喪失証という非常に深刻な病気になったのです。
聖書は私たちに神様を向けて大きくて多くの欲望を持つように勧めています。 神様に求めなさい、神様に叫びなさいというお言葉が聖書にたくさん記録されています。 “わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう。”(詩篇,81:10)、“ わたしに呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに答える。そしてあなたの知らない大きな隠されている事を、あなたに示す。”(エレミヤ書, 33:3)、“ 求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。”(マタイによる福音書, 7:7,8). イエス様は私たちに神様の恵みと助けを積極的に求めなさいとおっしゃいました。 これを比喩として教えたりしました。 その比喩はこのようです。 「あなたがたのうちのだれかに、友人があるとして、その人のところへ真夜中に行き、『友よ、パンを三つ貸してください。 友だちが旅先からわたしのところに着いたのですが、何も出すものがありませんから』と言った場合、彼は内から、『面倒をかけないでくれ。もう戸は締めてしまったし、子供たちもわたしと一緒に床にはいっているので、いま起きて何もあげるわけにはいかない』と言うであろう。しかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起きて与えないが、しきりに願うので、起き上がって必要なものを出してくれるであろう (ルカによる福音書, 11:5～8)とおっしゃいました。 私たちは事毎に意欲があふれなければなりません。 欲望を持って神様の助けを求めて熱心に努力しなければなりません。 ところで気を付けなければならないことは欲望を持つが貪欲は持ってはいけないというのです。貪欲と言うのは身に余る欲望で度が外れた欲心です。

貪欲を持てばあらゆる悪い弊端が生じます。 正しくない傾向や有害な現象が新たな事になります。

第一、貪欲は私たちの生で感動と満足が消えさせます。
貪欲は継走競走のように一つの欲心が成就すればまた他の欲心が手を突き出させるから果てしなく不満しながら暮させます。

第二、貪欲は偽り、不正、不意、悪の温床になります。
人間社会で発生するあらゆる不正腐敗は貪欲からよったのです。 権力と財物と名声を皆手に入れようと思う貪欲のため悲劇的な結末に至る人々がいます。 他人の生命を害する悪い犯罪も貪欲から始まります。

第三、貪欲は判断力と分別力を抹殺させます。
予言者エリサ時代にあった事です。 アラム国の軍隊長官ナアマンがハンセン病にかかりました。 ナアマン将軍は妻の女しもべであるイスラエル少女を通じてエリサに会えば病気を直すことができるという話を聞きました。 彼は王の許しを得た後多くの贈り物を持ってエリサを訪ねました。 そしてエリサが指示したとおりヨダン川に七回身を洗ったらハンセン病にきれいにいやしました。 ナアマン将軍はエリサに礼物を差し上げたがエリサはこれを受けなかったです。 エリサの小使いケハシはその礼物がほしかったです。 それで予言者の密かにナアマン将軍を追い掛けて行きました。ケハシはナアマン将軍にエリサのおつかいを全ことのようにうそをついて銀一ダルラントと服も二着を要請しました。 ナアマン将軍はゲハシに銀二つのダルラントと服も与えました。 ケハシそれを自分の家に隠してエリサ予言者に行きました。その後エリサが尋ねました。 “ケハシよ、あなたがどこに行って来るのか?” ケハシ は“しもべがどこも行かなかったです。” と答えました。 エリサが言いました。 “その人が車から降りてあなたを迎える時に私の心霊が感覚されなかったか。 今がどうして銀を受けて服を受けて甘藍園やぶどう農園や羊や牛や男しもべや女しもべを受ける時か だからナアマンのハンセン病があなたに入って永遠にあなたの子孫にあるでしょう。” ゲハシがその前から出たらハンセン病にかかって雪のように白くなりました。

第四、貪欲は破滅をもたらします。
カリオテユダは貪欲が彼の心に席を取るようになると献金を盗むようになりました。 結局は大祭司長にお金をもらってイエス様を売ってしまいました。 その後に自分を責めてから首をつりました。 カリオテユダは貪欲を治めることができなくてこんな破滅にあいました。 欲望は風のようなのです。 風を利用して帆掛け船が願う所に進むことができます。 しかし貪欲は暴風のようで船を破船させます。 聖書には “貪欲は偶像礼拝にほかならない。”(コロサイ人への手紙, 3:5) したし “欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出す。”(ヤコブの手紙, 1:15) しました。 だから私たちは貪欲を徹底的に治めなければなりません。

貪欲を治める方法に対してよく見ます。

第一、一攫千金を望んではいけないです。
一攫千金を願うなら詐欺師に引っかかります。
まじめに働いて得た所得には金銭以上の価値があります。

第二、何を追い求めても愛の動機にしなければなりません。
律法学者一りがイエス様に質問するのを “先生、律法の中にどの啓明が大きいですか?” しました。 イエスキリストが答えました「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」。 (マタイによる福音書, 22:37～40). 神様を愛する動機と隣りを愛する動機に行えば貪欲が介入される余地がないです。

第三 得ようとする欲望と与えようとする欲望が均衡と調和を成すようにしなければなりません。
得ようとする心と与えようとする心が均衡を成せば幸せな生になります。 どの社会でも重要な人物になって必要な人と認められる人は与えるのが好きで仕えるのを力をつくす人です。

第四、事毎に最善をつくして結果は神様の導くに任せなければなりません。
必ず私が願うとおりにだけならなければならないと固執すれば貪欲を起こすようになって無理をするようになります。 事毎に最善をつくした後その結果を神様の導くことで分かって収容する態度を取れば貪欲の支配を受けなくなります。

五番目、聖徒は天国を向けて行く旅人というのを常に思わなければなりません。
アブラハム、イサク、ヤゴブの生涯に対する記録をよく見れば彼らはまじめで勤勉に暮しながら多くの財産を集めました。 銀と金が豊かで羊の群れと牛の群れが多かったし奴婢も多かったです。 しかし彼らは堅固で豪華な邸宅を建ててぜいたくに暮さなかったです。 財物に奴隷になる生活をしなかったです。その理由が明白です。 この地には永遠に住む城がないということをよく分かっていました。 いつかは故郷に帰るということを増えると思いました。 彼らの慕う故郷は肉身の故郷ではなかったです。 天にある故郷でした。 天国で享受する福楽を思えば世の中の財物と名声にとらわれすぎないです。 財物と名声を貪って歳月をむだ使いしないです。

今日の聖徒は救いの恵みと真理が分かって天国と再臨と復活と最後の審判に対してもたくさん分かっています。 私たちがイエスキリストにあって変化されて得たことが極めて大きくて豊富です。 世の中にあるとの何を加えるとか抜くとかしても大きく変わることがないです。 だから貪欲を持ってむりやりに行いながら生きて行く理由がないです。 イエスキリストにあって人々は世の中が与えることができずに奪うことができない満足することと余裕を持って生きて行くことができます。 聖徒の皆さんは貪欲を退けてイエスキリストによる満足と余裕を精一杯享受しながら生きて行くように願いします。